

(別紙)

令和6年度(令和5年度からの繰越分)障害福祉分野のロボット等導入支援事業
(施設等に対する導入支援) 事業報告書

※導入機器ごとの効果や目的等を把握するため、導入機器ごとにそれぞれ作成をしてください。(一体的に利用している機器を除く)

自治体名 川崎市

【基本情報】

フリガナ	シャカイフクシホウジンセイカソウコウボウ
法人名	社会福祉法人生活工房
フリガナ	サツキグループ
事業所名	さつきグループ
施設・事業所種別(指定を複数受けている場合は、補助上限額を適用する施設・事業所を選択)	
グループホーム	
職員数(常勤換算数)【「従事者の1ヶ月の勤務時間」/「事業所等が定めている、常勤の従事者が勤務すべき1週間の時間数 × 4(週)」にて算出(産休・育休、休職は除く)】	
42.5 人	

(1) 主な導入機器内容(種別・機器名等)

機器の種別: ☐ 移乗介護 ☐ 排泄支援 ☐ 入浴支援
☐ 移動支援 ☒ 見守り・コミュニケーション

機器名(導入台数) 見守りシステム tenshiru

(2) ロボット機器等導入前の定量的指標及びロボット機器等導入後の定量的指標

① ロボット機器等導入前の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D. 1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E (A×C×D)	1人あたり 業務時間 (D×D/A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)	6 人	30 件	360 件	270 分	9,720 人時間	270 時間
	4 行動上の問題への対応(※2)	6 人	10 件	120 件	60 分	720 人時間	20 時間
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動	6 人	30 件	360 件	180 分	6,480 人時間	180 時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)	6 人	30 件	360 件	30 分	1,080 人時間	30 時間
	8 見守り機器の使用・確認	6 人	0 件	0 件		0 人時間	0 時間
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	#DIV/0!
			100 件	1,200 件	540 分	18,000 人時間	#DIV/0!

※1 入眠起床支援、利用者とのコミュニケーション、訴えの把握、日常生活の支援

※2 徘徊、不潔行為、昼夜逆転等に対する対応等

※3 利用者に関する記録等の作成、勤務票等の作成、申し送り、文書検索等

以下の※1及び※2については、ロボット機器等導入前の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※1>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

3・・・毎日のことなので、1ヶ月を30日として算出。 4・・・基本的にはこういった対応が必要な場面はなく、イレギュラーなもの。程度は様々だが平均すると10件。
6・・・毎日のことなので、1ヶ月を30日として算出。 7・・・毎日のことなので、1ヶ月を30日として算出。
8・・・これまでは見守り機器を使用していなかった。

<※2>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

3・・・この業務がメインの業務であり、記録から算出するとこの時間となる。 4・・・その時によって時間にはかなり幅があり、長いときには他の業務ができなくなることもある。平均するとこの程度 6・・・特に夜間帯の巡回は定期的に行うので比較的多くの時間を必要とする。これも記録から算出。
7・・・利用者支援記録、会計簿、業務日報が中心で、日によっての所要時間長はほとんどない。30分程度で終わる。

② ロボット機器等導入後の業務時間内訳

業務内容		A.業務従事者数	発生件数		D. 1件当たりの 平均処理時間(分)	人時間 E (A×C×D)	1人あたり 業務時間 (D×D/A)
			B.ひと月当たり	C.年間発生件数(B×12)			
直接介護	1 移動・移乗・体位変換			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	2 排泄介助・支援			0 件		0 人時間	#DIV/0!
	3 生活自立支援(※1)	6 人	30 件	360 件	270 分	9,720 人時間	270 時間
	4 行動上の問題への対応(※2)	6 人	5 件	60 件	40 分	240 人時間	7 時間
	5 その他の直接介護			0 件		0 人時間	#DIV/0!
間接業務	6 巡回・移動	6 人	30 件	360 件	15 分	540 人時間	15 時間
	7 記録・文書作成・連絡調整等(※3)	6 人	30 件	360 件	30 分	1,080 人時間	30 時間
	8 見守り機器の使用・確認	6 人	30 件	360 件	60 分	2,160 人時間	60 時間
	9 その他の間接業務			0 件		0 人時間	#DIV/0!
			130 件	1,500 件	465 分	13,740 人時間	#DIV/0!

以下の※3及び※4については、ロボット機器等導入後の実際の業務状況に即した算出をお願いします。

<※3>B. ひと月当たり発生件数の算出方法

3・・・見守り機器の導入とは関係なく行う業務なので件数に変更はない。 4・・・職員が利用者を訪問することで結果的に発生してしまうこともあったが、機器導入で居室訪問の機会が減ったので4の件数も若干だが減少した。 6・・・この業務自体が全くなくなるわけではないので、機器導入後も件数に変更なし。
8・・・毎日の業務なので、1ヶ月を30日として算出。

<※4>D. 1件当たりの平均処理時間の算出方法

3・・・見守り機器の導入とは関係ない業務なので変更なし。 4・・・職員が利用者を訪問することで結果的に発生してしまうこともあったが(職員の訪問がよけいな刺激に
なってしまう)、見守り機器の導入で訪問自体が減り、結果的に対応時間も減った。数字は記録から算出。
6・・・各居室への訪問がかなり減ったため大幅減となった。 7・・・機器導入とは関係ない業務なので変更なし。 8・・・(床で長時間横になった状態でのなどの

年間業務時間数想定削減率(%)

23.7%

(3)削減率が20%を超える場合は、その要因について記載すること。

現状は各利用者の居室へ直接巡回して安否確認を実施しており、また、訪問すると利用者によっては色々な訴えや質問やお話が始まってしまいその対応のために更に時間が
必要になる、といったところ
です。
これが見守りシステム導入によって巡回の回数も所要時間も大幅に削減でき、さらに必ずしも必要ではないと考えられる利用者との面談時間も削減できています。
職員が利用者を訪問することで結果的に発生してしまう問題行動(職員の存在が余計な刺激になってしまう)も減り、4の時間もかなり減少しています。

(4)ロボット機器等の導入により得られた効果

見守りは必要だが、一方で職員が居室へ入室することが結果的に利用者様の余計な刺激となってしまう負担をかけてしまうといったことが往々にしてあります。こういったこと
を回避するための一助になりました。また、就寝時間、起床時間、睡眠時間の把握が一部のご利用者様支援にとってプラスになっています。

(5)今後の課題

試験的に一部のユニットで導入を開始し、益があることは明確になったので他のユニットへも拡充していきたいが、予算の問題があります。

(6)気づき等について

カメラではなく、また画像をシルエットにして映し出すタイプでもなく、人の動き(座っている、立っている、横になっている、動いている)を点と線だけで表すものであり、プライバシー
に配慮したものとなっています。また、これで充分であることも改めて確認できました。

(7)費用面での効果(ロボット機器等の導入による費用の削減の有無を必ず選択すること。)

ロボット機器等の導入による費用の削減	無
--------------------	---

ロボット機器等の導入による費用の削減が「有」の場合、以下を回答すること。

削減額(円／月)	
職員の質上げ等への充当	
その他職場環境の改善への充当(※1)	
サービスの質の向上に係る取組への充当(※2)	

(※1)その他職場環境の改善の具体的な内容について記載すること。

(※2)サービスの質の向上に係る取組の具体的な内容について記載すること。